

令和5年度 学校評価結果報告書

四国中央市立 土居小学校

1 教職員自己評価

項目	番号	観点項目	学期	A	B	C	D	評価
教育課程 (推進)	1	地域・家庭・児童の実態を正しく把握し、その特性を生かし、学校の教育目標の具現化に向けて、教育活動が推進されている。	1	0	11	3	1	◎
			2	6	9	0	0	
	2	学校運営は適切に行われた。(行事・授業時数・教科等年間指導計画・週案の記入)	1	2	11	2	0	◎
			2	5	10	0	0	
	改善点		<ul style="list-style-type: none"> 音楽会の体育館使用とスローアンドキャッチラリーの時期が重なったので、令和6年度は必ず事前に計画を立てると良い。 成績処理に一週間の短縮授業の実施、ありがたかった。学年末もお願いしたい。 					
	学習指導 (励励)	1	本校の研究主題に沿って、研修が積み上げられた。	1	3	11	1	0
2				5	10	0	0	
2		話し合いの場や学習形態などの設定ができた。	1	1	13	1	0	○
			2	4	11	0	0	
3		朝ドリルの時間では、児童が意欲的に取り組む手立てを考えた。	1	3	11	0	1	○
			2	5	9	1	0	
4		効果を高める教材、教具(ChromebookなどのICT機器)の活用や工夫ができた。	1	5	9	0	1	◎
			2	6	9	0	0	
5		学習指導要領改訂を踏まえ、計画的に指導を行った。	1	3	12	0	0	○
			2	3	11	1	0	
改善点		<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の定着は、すぐに成果は出ないため、ドリルタイムなどに継続して取り組む。 チャレンジ週間を設定することで、自主勉強をする児童が増えた。チャレンジ週間の回数も適切である。 						
生徒指導 (采女)	1	生徒指導上の諸問題について教職員の共通理解、共通実践ができた。	1	4	10	1	0	◎
			2	8	7	0	0	
	2	いじめや不登校などの早期発見・早期対応のための手立てが適切であった。	1	4	11	0	0	○
			2	4	11	0	0	
	3	発達段階に即した基本的な生活習慣を身に付ける継続的な指導を行った。	1	3	12	0	0	◎
			2	4	11	0	0	
	4	配慮を要する児童の把握・継続的な指導を行った。	1	5	9	1	0	◎
			2	7	8	0	0	
	5	教育相談(その後の個別指導を含む)を定期的にとり、児童との信頼関係を深めた。	1	6	8	1	0	○
			2	6	9	0	0	
	6	地域や家庭との連携を意識した生徒指導を行った。	1	5	10	0	0	○
			2	5	10	0	0	
改善点		<ul style="list-style-type: none"> 児童の情報共有の時間が適切に設けられており、指導に生かされた。 						
特別活動 (高橋)	1	学級活動において、話し合い活動を活発に行った。	1	2	12	1	0	◎
			2	6	9	0	0	
	2	クラブ活動の持ち方が適切であった。	1	5	10	0	0	◎
			2	11	4	0	0	
	3	委員会活動・代表委員会の持ち方が適切であった。	1	2	12	1	0	◎
			2	6	9	0	0	
	4	児童会活動の内容や実施は適切であった。	1	0	14	0	1	◎
			2	6	9	0	0	
	5	縦割り班遊びの運営・内容は、適切であった。	1	5	8	1	1	◎
			2	10	5	0	0	
改善点		<ul style="list-style-type: none"> 月行事で決まっていますが、児童の様子や他の行事等の兼ね合いでクラブや縦割り遊びの日時の変更があってもよい。 						
組織運営 (教頭)	1	校務分掌組織は適切で、機能していた。	1	1	11	2	1	◎
			2	4	9	2	0	
	2	教職員相互の連帯と協同がなされた。	1	2	12	1	0	○
			2	5	8	2	0	
	3	職員会の計画、運営は、適切であった。	1	3	10	2	0	○
			2	3	12	0	0	
	4	教職員の服務は厳正であった。	1	8	7	0	0	○
			2	9	6	0	0	
	5	教職員として、危機意識を持って指導に当たった。	1	7	8	0	0	○
			2	9	6	0	0	
	6	会計、情報管理、諸帳簿などの点検・整理・保管は適切に行った。	1	7	7	1	0	◎
			2	12	3	0	0	
改善点		<ul style="list-style-type: none"> 朝早く来ている先生方が校舎の解錠をしてくれたり、多くの先生方が忙しい先生方のフォローに動いてくれたりしてくれるので、とてもありがたい。 職場で気持ちよく働けるような環境づくりが大切。 休日の行事への参加について、見通しを立ててみんなが分担できるようにした方がよい。 						
健康安全指導 (大原)	1	健康に関する児童・保護者の意識向上、啓発への働き掛けを行った。	1	6	9	0	0	○
			2	6	9	0	0	
	2	日常の健康観察を適切に行い、児童の心身の健康状態の把握に努めた。	1	7	8	0	0	◎
			2	13	2	0	0	
	3	学校安全計画に基づき、校内・外の安全指導(休み時間・放課後の運動の奨励を含む)を適切に行った。	1	6	9	0	0	○
			2	7	8	0	0	
	4	安全点検を定期的実施し、適切に処理できている。	1	7	8	0	0	○
			2	9	6	0	0	
	5	食育指導(栄養・配膳・マナーなど)は適切に行われている。	1	5	10	0	0	○
			2	5	10	0	0	
改善点		<ul style="list-style-type: none"> 昼休みの外遊びの奨励を継続して行っていきたい。 トイレのスリッパが揃っていないなかったり、トイレを流し忘れていたりすることがよく見られるため、正しいトイレの使用方法を指導していく必要がある。 						

項目	番号	観点項目	学期	A	B	C	D	評価
保護者との連携（教頭）	1	参観日（公開内容・懇談内容）の持ち方は、適切である。	1	2	11	2	0	○
			2	2	12	1	0	
	2	家庭訪問、個人懇談会の実施方法・内容は適切である。	1	2	13	0	0	○
			2	4	11	0	0	
	3	地域からの声を大切にし、誠意を持って対応できている。	1	6	9	0	0	○
			2	5	10	0	0	
	4	家庭・地域に、学級や学校の情報を効果的に発信している。	1	6	9	0	0	○
			2	7	8	0	0	
	5	幼・保・中、地域との連携が図られている。	1	3	11	1	0	◎
			2	6	9	0	0	
改善点	・学校のことを家庭で話さないという児童が多い。便り等で家庭の話題にとりあげられるものを工夫していく。							
項目	番号	観点項目	学期	A	B	C	D	評価
人権・同和教育（井上大）	1	学級経営を基盤にし、自他の良さを認め合う温かい人間関係の構築に努めた。	1	4	11	0	0	○
			2	6	9	0	0	
	2	人権・同和教育の視点に立って授業を計画的に実施した。	1	4	11	0	0	○
			2	4	11	0	0	
	3	校内研修の方向や方法は適切である。	1	5	9	1	0	○
			2	5	10	0	0	
	4	児童の言動に対して敏感になり、その場で適切に指導した。	1	6	9	0	0	△
			2	7	7	1	0	
	5	保護者への啓発活動（地区別懇談会）は、計画的に行われた。	1	5	8	2	0	○
			2	4	10	1	0	
改善点	・市同研で発表した実践などをこれからも学校全体で継続して取り組んでいくことが大切である。							
項目	番号	観点項目	学期	A	B	C	D	評価
道徳教育（井上大）	1	全教育活動の中で、豊かな体験を生かすなど内面に根差した道徳教育を行い、心の成長に努めた。	1	3	11	1	0	◎
			2	5	10	0	0	
	2	多様な価値観の練り合いを大切に学習を行った。	1	3	11	1	0	◎
			2	5	10	0	0	
	3	評価の蓄積を行い、児童の指導に生かすことができた。	1	5	9	1	0	○
			2	5	10	0	0	
改善点	・道徳科のファイルを定期的に持ち帰り、家庭との連携を図っていくことを続けていく。							
項目	番号	観点項目	学期	A	B	C	D	評価
特別支援教育（中村）	1	特別支援学級の児童について共通理解を図り、全校的な協力体制づくりに努めた。	1	8	7	0	0	○
			2	9	6	0	0	
	2	特別支援学級の児童との交流が図られ、温かい人間関係づくりに努めた。	1	7	8	0	0	◎
			2	10	5	0	0	
	3	学級内にいる支援が必要な児童の学習や行動のつまづきに気付き、適切な支援をすることができた。	1	5	10	0	0	◎
			2	8	7	0	0	
	4	個別の支援計画・指導計画が作成・活用されている。	1	5	9	1	0	○
			2	5	9	1	0	
	5	医療機関や関係機関との連携を定期的・継続的に行った。	1	7	8	0	0	○
			2	6	9	0	0	
改善点	・個別の指導計画については、十分に生かす手立てをとれなかったと感じる。市での審議の際に重視しているので、今年度の記録と来年度への引継ぎをはっきりと分かるようにしておきたい。							
項目	番号	観点項目	学期	A	B	C	D	評価
児童の実態（采女）	1	明るく元気な挨拶ができている。	1	3	11	1	0	○
			2	3	11	1	0	
	2	履き物をきちんと揃えることができた。	1	2	11	2	0	△
			2	2	9	4	0	
	3	大きな声での返事や発表ができている。	1	2	10	3	0	△
			2	0	13	2	0	
	4	友達の良さや頑張りに気付き認めることができています。	1	3	12	0	0	○
			2	4	11	0	0	
	5	正しい言葉遣いができている。	1	2	10	3	0	○
			2	0	13	2	0	
	6	黙って清掃ができている。	1	4	8	3	0	○
			2	3	10	2	0	
	7	規範意識が育っている。	1	1	14	0	0	○
			2	1	14	0	0	
	8	正しい姿勢で学習できている。（かかとびたっ、指先びん）	1	0	9	6	0	○
			2	0	12	3	0	
	9	話している人の方を見て、聞いている。	1	0	11	4	0	○
			2	2	11	2	0	
	10	進んで読書に励んでいる。	1	1	12	2	0	○
			2	4	10	1	0	
	11	家庭学習の習慣が身に付いている。	1	0	15	0	0	○
			2	3	12	0	0	
	12	基礎学力が身に付いている。	1	0	11	4	0	△
			2	0	10	5	0	
改善点	<ul style="list-style-type: none"> 番号2・4・10については、まだまだ出来ていない児童が多くなる。 基礎学力について、個に応じた課題の設定が大切。学力の底上げという意味を考えて、学習規律や家庭学習など継続して指導していく必要がある。 挨拶については、少しずつよくなっている。 読書時間がなかなか取れない中で、少しでも読書量を増やすために、委員会からの働き掛けや学級に応じた工夫した取組が必要である。 履き物揃えについては、継続して指導する必要がある。 							

A:「よく当てはまる」 B:「当てはまる」 C:「あまり当てはまらない」 D:「全く当てはまらない」

「◎○△▲」の評価は、2学期の評価を数値し、以下の基準で付けています。A…2点 B…1点 C…1点 D…2点